

# 生きる力の構造と家庭の様子との関係 環境学習講座に参加した母親と環境・教育を学ぶ女子大学生との比較から

中川 僚子<sup>†1</sup>・宮本 康司<sup>†2</sup>・佐々木 剛<sup>†3</sup>  
(平成 30 年 11 月 29 日査読受理日)

## The relationship between the composition of living skills and family situations: Comparing mothers who have participated in nature experience family programs and female undergraduate students majoring in environmental education and child education

NAKAGAWA, Ryoko<sup>†1</sup> MIYAMOTO, Koji<sup>†2</sup> SASAKI, Tsuyoshi<sup>†3</sup>  
(Accepted for publication 29 November, 2018)

### 要約

本研究では、生きる力の構造と家庭の様子との関係を検証することを目的に、親子向け環境学習講座に参加した母親と、環境教育・児童教育を専門に学ぶ女子大学生を対象に、質問紙調査を行った。その結果、幼児の母親と女子大学生は、生きる力要素に類似性がある一方で、生きる力全体の構造は異なる傾向があることが明らかとなった。また、幼児の母親、女子大学生ともに「情報収集力と論理的思考力」の高さは、家庭での「文化体験」と関わりがあることが明らかとなった。

### Abstract

The purpose of this study is to investigate the relationship between the composition of living skills and family situations. We surveyed mothers who have participated in nature experience family programs and female undergraduate students majoring in environmental education and child education. We found that the mothers and female undergraduate students have different types of living skill compositions, although they have similar living skill elements, and that for both of them, their “gathering information skill” and “logical thinking skill” are related to their cultural experiences.

キーワード：生きる力、家庭の様子、母親、女子大学生、環境教育

Key words : Living skills, family situations, mothers, female undergraduate students, environmental education

## 1. 研究の背景

### 1.1 生きる力

生きる力とは、1966年に文部省（現・文部科学省）の中央教育審議会で示された教育目標であり、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、「たくましく生きるための

健康や体力」を指す<sup>1)</sup>。平成 32 年度より全面実施される小学校新学習指導要領では、予測困難な社会の変化に主体的に関わる力として、「生きて働く“知識・技能”の習得」、「未知の状況にも対応できる“思考力・判断力・表現力等”の育成」、「学びを人生や社会に活かそうとする“学びに向かう力・人間性”の育成」が示されている<sup>2)</sup>。また、現行の幼稚園教育要領では、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言語」、「表現」の領域から生きる力の基盤づくりが目標とされている<sup>3)</sup>。初等教育以降は、「生きる力」を基盤として、社会・職業への円滑な移行に必要な「基礎的・汎用的能力」、大学での「課題探求能力」の育成や「学士力」の習得<sup>4)</sup>、実社会における「社会人基礎力」が求

† 1 東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科

† 2 東京家政大学家政学部 環境教育学科

† 3 東京海洋大学学術研究院 海洋政策文化学部門

められている<sup>5)</sup>。このように、生きる力は、変容する社会において、全ての市民に必要な力であり、社会全体で教育に取り組むことが必要とされている。

## 1.2 持続可能な社会の形成と教育

一方、国際社会では、地球規模で深刻化する環境問題に対し、「持続可能な開発」という理念が醸成され、これを受けて、ユネスコを中心に「持続可能な開発のための教育」(ESD: Education for Sustainable Development)が推進されている<sup>6)</sup>。2015年、国連総会にて「持続可能な開発の目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)が採択され、その目標の一つとしてESDが位置付けられた<sup>7)</sup>。これを機に、我が国でもESDの重要性が再認識されている。

ESDは、幼児から高齢者まで全ての市民を対象とし、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和など多様な分野を統合した教育活動であるとされている<sup>8)</sup>。我が国の学校教育では、ESDを通して身に付けたい力の指標として、6つの概念(①多様性、②相互性、③有限性、④公平性、⑤連携性、⑥責任性)と、7つの能力(①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度)を設定している<sup>9)</sup>。また、これらが言わば全人的能力であることから、国立教育政策研究所では、「環境教育指導資料」の中で、ESDを通した生きる力の育成を目指している<sup>10)</sup>。さらに、小・中の新学習指導要領および新幼稚園教育要領では、到達目標として、「持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことが明記された<sup>11) 12)</sup>。これにより、環境教育の最終目標であるESDが、生きる力の育成と共に、正規学校教育の基本理念として取り入れられることとなった。

## 1.3 生きる力の育成

学校教育では、生きる力を育成するために、基礎的な知識・技能の習得とともに、自然体験活動や言語活動が重要であるとしている<sup>13)</sup>。また、幼稚園教育では、身近な環境や人とのかかわりの中で体験を積み重ねること、そのために地域や家庭との連携が重要であるとしている<sup>14)</sup>。

これらに関連して、家族の生きる力の研究から、親の生きる力が子どもの生きる力に関与することが報告されている。例えば、白木らは、「自尊感情」や「人間関係能力」が高い親の子どもは、「困ったときでも前向きに取り組む」ことができるとしており<sup>15)</sup>、安藤らは、親の「論理性」や「探究心」が子どもの「自主性」、「創造性」に影

響するとしている<sup>16)</sup>。さらに、子どもの生きる力の育成に、親の幼少期の家族体験の豊富さが重要であることが報告されている<sup>17)</sup>。

加えて、親の生きる力には性別特性があることも報告されている<sup>18)</sup>。母親の子どもとのかかわりをみると、子どもに対するソーシャルサポートは、父親に比べて母親の方が大きいこと<sup>19)</sup>、家族からのソーシャルサポートが、子どものソーシャルスキルに正の影響を与えることが報告されている<sup>20)</sup>。最近では、母親の「寄り添い型」の育児姿勢や、「子ども自身が考えられるようにながす」働きかけと、子どもの学びに向かう力に関連がみられることも報告されている<sup>21)</sup>。

以上から、家庭で過ごす時間が長い幼児にとって、母親とのかかわりは重要であり、幼児の生きる力の育成に、母親自身の生きる力が影響すると推測される。先行研究では、親の生きる力に性別特性があること、母親の幼少期の家族体験が現在の家庭の様子や子どもの生きる力へ影響を与えることが示唆されているが、それらが単なる性別差によるものなのか、母親特有のものなのかは明らかとなっていない。また、これまでに母親の生きる力を要素ごとに解析した研究は行われているが、生きる力全体の傾向で母親をグループ分けした、いわば「生きる力タイプ」ごとの解析は行われていない。そこで、本研究では、生きる力の獲得プロセスに着眼し、環境や教育に関心が高く親子向け環境学習講座に参加した母親と、母親予備軍として、同じく、環境や教育を専門に学んでいる女子大学生を対象に、幼児の母親の生きる力の構造と現在の家庭の様子との関係、女子大学生の現在の生きる力の構造と幼少期に享受した家庭の様子との関係を明らかとすることを目的とした。

## 2. 方法

### A 幼児の母親の生きる力と現在の家庭の様子に関する質問紙調査

#### 調査対象と調査方法

2013(平成25)年から2017(平成29)年に首都圏某区で開催された「幼児と親向け環境学習講座」(合計29講座)を受講した親328名のうち、母親(189名 57.6%)のみを対象とした。各講座は、区報とチラシにて参加募集が行われ、定員は16組32名であった。講座では、「自然のしくみ」、「生き物の工夫」、「人と自然のかかわり」に視点を置き、実際の観察体験と、開発したテキスト絵本などによる学習が行われた。講座プログラム終了後に質問紙を配布し、調査を実施した。回収率は100%であった。尚、質問紙冒頭に「調査は研究のみに使用し、個人を特定して公表しない」旨を明記し、調査開始前に口頭

による説明も行った。

#### 調査時期

調査は、2013（平成25）年5月19日～2017（平成29）年11月19日（合計29講座）に実施した。

#### 調査内容

##### ①生きる力

宮本らによって開発された生きる力尺度のうち<sup>22)</sup>、18設問（6要素）を使用した。回答は4件法（「4.よくあてはまる」から「1.まったくあてはまらない」）で求めた。6要素は「探求心」、「情報収集力」、「論理的思考力」、「対処能力」、「他者の尊重」、「対人効力」である（別表1）。

##### ②現在の家庭の様子

家庭の様子項目<sup>23)</sup>から14設問（7項目）を使用した。回答は4件法（「4.よくあてはまる」から「1.まったくあてはまらない」）で求めた。7項目は、「学習」、「文化体験」、「親子対話」、「夫婦対話」、「家族対話」、「ルール」、「危険管理」である（別表2）。

### B 女子大学生の生きる力と幼少期の家庭の様子に関する質問紙調査

#### 調査対象と調査方法

首都圏某区の女子大学生281名（環境系3年生84名、教育系2年生90名、教育系3年生107名）を対象とし、通常の授業時間内で実施した。調査紙は授業担当者を通じて授業開始前に配布され、記入後速やかに回収された。有効回答数は273名で、回収率は97.1%であった。尚、質問紙冒頭に「調査は研究のみに使用し、個人を特定して公表しない」旨を明記し、調査開始前に口頭による説明も行った。また、回答に対する個人情報保護のため、無記名で調査を行った。

#### 調査時期

調査は、2018（平成30）年7月14日～2018（平成30）年7月24日に実施した。

#### 調査内容

##### ①生きる力

宮本らによって開発された生きる力尺度のうち<sup>24)</sup>、18設問（6要素）を使用した。回答は4件法（「4.よくあてはまる」から「1.まったくあてはまらない」）で求めた。6要素は「探求心」、「情報収集力」、「論理的思考力」、「対処能力」、「他者の尊重」、「対人効力」である。

##### ②幼少期の家庭の様子

12歳までの家庭の様子について、家庭の様子項目<sup>25)</sup>から5設問（3項目）を使用した。回答は4件法（「4.よくあてはまる」から「1.まったくあてはまらない」）

で求めた。3項目は、「学習」、「文化体験」、「親子対話」である。

※本研究で行った統計処理には、統計解析ソフトウェアSPSS STS 25を使用した。

### 3. 結果

#### 3.1 幼児の母親と女子大学生の生きる力の要素

幼児の母親と女子大学生の生きる力について、生きる力6要素の得点を3設問の平均値から算出した。表1に、それぞれの生きる力要素平均値と標準偏差を示す。幼児の母親、女子大学生ともに、「探求心」（幼児の母親  $M = 3.51$   $SD = .46$  女子大学生  $M = 3.26$   $SD = .57$ ）が最も高く、続いて「他者の尊重」、「対処能力」、「論理的思考力」、「情報収集力」の順に低くなり、「対人効力」（幼児の母親  $M = 2.76$   $SD = .58$  女子大学生  $M = 2.77$   $SD = .63$ ）は最も低かった。また、幼児の母親は、女子大学生に比べて「探求心」（ $t = 5.12$ ）、「論理的思考力」（ $t = 3.05$ ）が有意に高い結果となった。

#### 3.2 幼児の母親の生きる力要素と現在の家庭の様子との関係

表2に、幼児の母親の生きる力要素と、現在の家庭の様子との相関係数を示す。家庭の様子項目の「学習」と「親子対話」は、全ての生きる力要素と有意な相関がなかった。一方で、「家族対話」は、全ての生きる力要素と有意な正の相関があった。その他に有意な正の相関があった家庭の様子と生きる力要素の組み合わせは、「文化体験」と「探求心」「情報収集力」「論理的思考力」「対処能力」「他者の尊重」、「夫婦対話」と「情報収集力」「論理的思考力」「対処能力」「他者の尊重」、「ルール」と「情報収集力」「論理的思考力」「他者の尊重」、「危険管理」と「他者の尊重」であった。

#### 3.3 女子大学生の生きる力要素と幼少期の家庭の様子との関係

表3に、女子大学生の生きる力要素と、幼少期の家庭の様子との相関係数を示す。有意な正の相関があった幼少期の家庭の様子と生きる力の組み合わせは、「学習」と「探求心」「対処能力」「他者の尊重」「対人効力」、「文化体験」と「探求心」「情報収集力」「論理的思考力」「対処能力」「対人効力」、「親子対話」と「情報収集力」「論理的思考力」「対処能力」「他者の尊重」「対人効力」であった。

#### 3.4 幼児の母親と女子大学生の生きる力の構造

幼児の母親と女子大学生について、生きる力要素によるクラスター分析を行った（Ward法、ユークリッド平

方距離). テンドログラムの様々な水準で分析を行ったところ, 幼児の母親, 女子大学生ともに, 解釈可能な水準で4グループに分類された. 結果を表4, 表5, および図1, 図2に示す. 幼児の母親の生きる力クラスターは, Iグループ43名, IIグループ49名, IIIグループ64名, IVグループ29名, また, 女子大学生の生きる力クラスターは, iグループ64名, iiグループ47名, iiiグループ84名, ivグループ78名となった.

それぞれのクラスターの特徴をみると, 幼児の母親の生きる力クラスターでは, IグループとIIグループは「対人効力」が低く (I : M = 2.33 SD = .47, II : M = 2.46 SD = .45), IグループはIIグループより「情報収集力」と「論理的思考力」が低い (I : M = 2.10 SD = .39, I : M = 2.59 SD = .34, II : M = 3.02 SD = .52, II : M = 3.11 SD = .55), IIIグループとIVグループは「対人効力」が高く (III : M = 3.08 SD = .42, IV : M = 3.22 SD = .48),

IIIグループはIVグループより「情報収集力」と「論理的思考力」が低かった (III : M = 2.72 SD = .33, III : M = 3.14 SD = .35, IV : M = 3.56 SD = .33, IV : M = 3.80 SD = .30).

女子大学生の生きる力クラスターでは, iグループとiiグループは「対処能力」が低く (i : M = 2.72 SD = .44, ii : M = 2.79 SD = .40), iグループはiiグループより「情報収集力」と「論理的思考力」が低かった (i : M = 2.36 SD = .35, i : M = 2.49 SD = .42, ii : M = 3.00 SD = .33, ii : M = 3.13 SD = .38). iiiグループとivグループは「対処能力」が高く (iii : M = 3.55 SD = .41, iv : M = 3.55 SD = .46), iiiグループはivグループより「情報収集力」と「論理的思考力」が低かった (iii : M = 2.55 SD = .53, iii : M = 2.72 SD = .53, iv : M = 3.241 SD = .40, iv : M = 3.41 SD = .46).

表1 幼児の母親と女子大学生の生きる力要素

	幼児の母親 (n=186)		女子大学生 (n=273)		t 値	
	M	SD	M	SD		
探求心	3.51	0.46	3.26	0.57	5.117	***
情報収集力	2.78	0.62	2.78	0.55	0.026	ns.
論理的思考力	3.10	0.55	2.94	0.59	3.053	**
対処能力	3.26	0.50	3.22	0.58	0.655	ns.
他者の尊重	3.32	0.45	3.37	0.50	-1.003	ns.
対人効力	2.76	0.58	2.77	0.63	-0.101	ns.

t-test, \*\*\*p < .001, \*\*p < .01

表2 幼児の母親の生きる力要素と現在の家庭の様子との関係

	探求心	情報収集力	論理的思考力	対処能力	他者の尊重	対人効力
学習	.052	.136	.036	.008	-.044	.054
文化体験	.241**	.341**	.162*	.161*	.162*	.098
親子対話	.065	.017	.028	.058	.088	-.010
夫婦対話	.118	.288**	.156*	.173*	.155*	.105
家族対話	.154*	.349**	.382**	.188*	.183*	.219**
ルール	.030	.176*	.192**	.058	.215**	.105
危機管理	-.081	.087	.135	.047	.212**	-.042

Pearson の相関係数 \*\*p < .01, \*p < .05

表3 女子大学生の生きる力要素と幼少期の家庭の様子との関係

	探求心	情報収集力	論理的思考力	対処能力	他者の尊重	対人効力
学習	.225**	.118	.079	.188**	.175**	.170**
文化体験	.301**	.280**	.137*	.165**	.082	.125*
親子対話	.118	.212**	.156**	.210**	.159**	.250**

Pearson の相関係数 \*\*p < .01, \*p < .05

### 3.5 幼児の母親および女子大学生の生きる力クラスターと家庭の様子との関係

幼児の母親の生きる力クラスターは、「対人効力」高群・低群で全体が2タイプに分かれたのに対し、女子大学生の生きる力クラスターでは、「対処能力」高群・低群で全体が2タイプに分かれる構造となったことを受け、生きる力クラスターを独立変数とし、母親は現在の家庭の様子を従属変数、女子大学生は幼少期の家庭の様子を従属変数として一元配置分散分析を行った。結果を表6、表7に示す。表6より、幼児の母親について、全ての生きる力クラスター間で家庭の様子項目の「学習」、「親子

対話」、「危険管理」に関する有意な差はみられなかった。また、「対人効力」が低いIグループIIグループ間でも有意な差がみられる家庭の様子項目はなかった。一方、「対人効力」が高いIIIグループIVグループ間では、IVグループはIIIグループより「文化体験」が有意に高かった。

女子大学生については、「対処能力」が低いiグループiiグループ間で、iiグループはiグループより「文化体験」が有意に高かった。また、「対処能力」が高いiiiグループivグループ間では有意な差がみられる項目はなかった。

表4 幼児の母親の生きる力クラスター

	クラスター I (n=43)		クラスター II (n=49)		クラスター III (n=64)		クラスター IV (n=29)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
探求心	3.41	.53	3.26	.35	3.67	.42	3.77	.30
情報収集力	2.10	.39	3.02	.52	2.72	.33	3.56	.33
論理的思考力	2.59	.34	3.11	.55	3.14	.35	3.80	.30
対処能力	3.31	.49	2.95	.52	3.26	.37	3.70	.35
他者の尊重	3.24	.47	3.09	.32	3.38	.43	3.70	.36
対人効力	2.33	.47	2.46	.45	3.08	.42	3.22	.48

表5 女子大学生の生きる力クラスター

	クラスター i (n=64)		クラスター ii (n=47)		クラスター iii (n=84)		クラスター iv (n=78)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
探求心	2.69	.48	3.10	.33	3.37	.49	3.71	.38
情報収集力	2.36	.35	3.00	.33	2.55	.53	3.24	.40
論理的思考力	2.49	.42	3.13	.38	2.72	.53	3.41	.46
対処能力	2.72	.44	2.79	.40	3.55	.41	3.55	.46
他者の尊重	2.91	.29	3.13	.33	3.52	.51	3.71	.34
対人効力	2.34	.54	2.54	.41	2.76	.60	3.25	.47

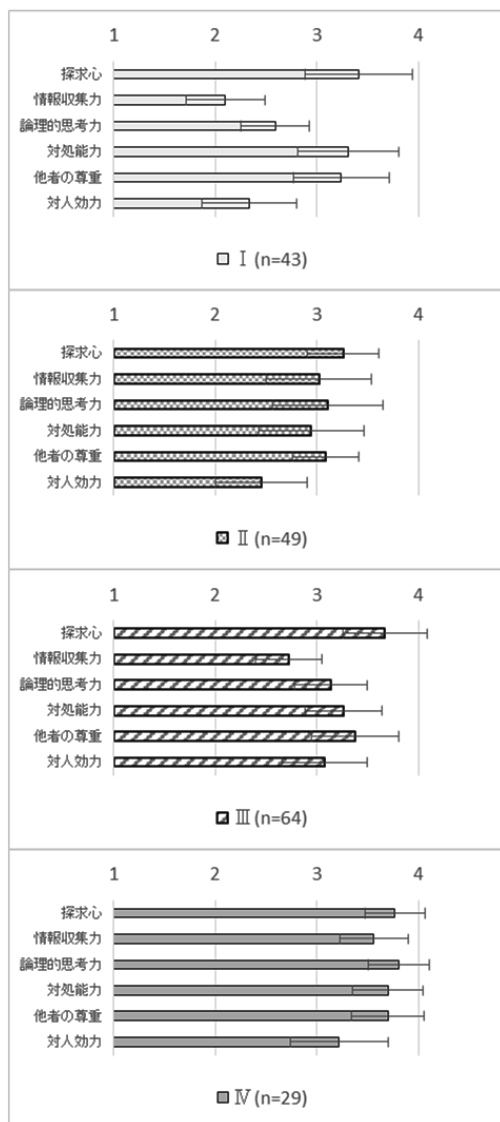


図1 幼児の母親の生きる力クラスター

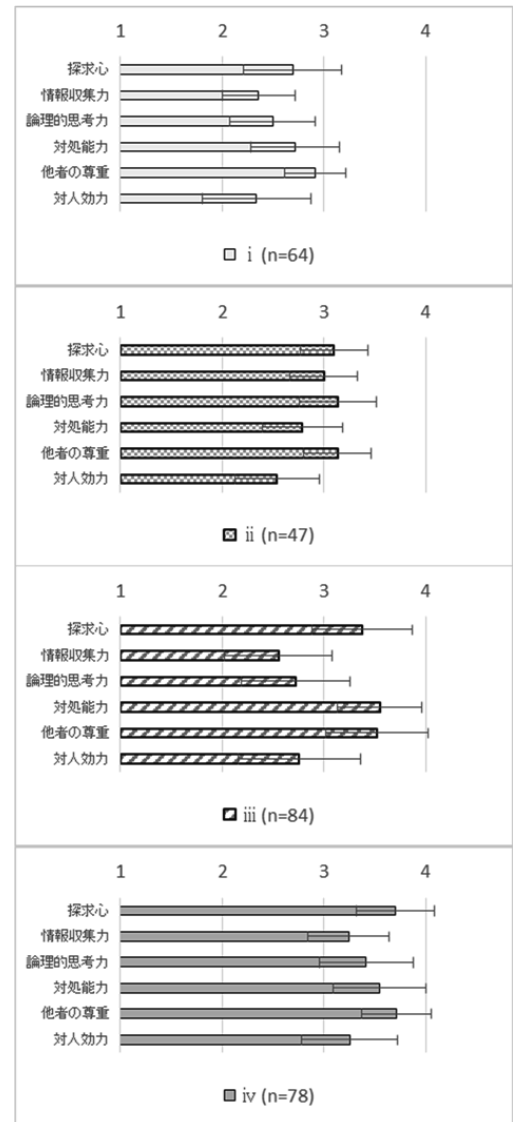


図2 女子大学生の生きる力クラスター

表 6 幼児の母親の生きる力クラスターと現在の家庭の様子との関係

	クラスター I (n=43)		クラスター II (n=49)		クラスター III (n=64)		クラスター IV (n=29)					
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD				
学習	2.69	.78	3.02	.56	2.87	.71	3.02	.79				
文化体験	2.52	.67	IV*	2.68	.55	IV*	2.58	.58	IV*	3.09	.63	I*II*III*
親子対話	2.95	.87	2.92	.89	3.11	.72	3.17	.93				
夫婦対話	2.29	.72	III*IV*	2.52	.76	2.79	.82	I*	3.00	.96	I*	
家族対話	2.56	.45	III*IV*	2.88	.56	IV*	2.98	.66	I*	3.26	.66	I*II*
ルール	2.97	.72	III*IV*	3.23	.61	3.32	.71	I*	3.50	.58	I*	
危機管理	3.32	.59	3.51	.49	3.40	.65	3.37	.63				

\*p<.05

表 7 女子大学生の生きる力クラスターと幼少期の家庭の様子との関係

	クラスター i (n=64)		クラスター ii (n=47)		クラスター iii (n=84)		クラスター iv (n=78)					
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD				
学習	2.81	.79	iii**iv***	3.10	.75	3.25	.72	i**	3.38	.67	i***	
文化体験	2.70	.83	ii**iii**iv'	3.17	.66	i**	3.10	.76	i**	3.32	.66	i***
親子対話	2.70	.89	iii*iv***	3.02	.94	3.11	.92	i*	3.40	.83	i***	

\*\*\*p<.001, \*\*p<.01, \*p<.05

#### 4. 考察と課題

##### 4.1 幼児の母親と女子大学生の生きる力の構造

生きる力要素の平均値から、幼児の母親と女子大学生の生きる力の類似性が示された。具体的には、幼児の母親と女子大学生は、ともに「探求心」が最も高く、「対人効力」が最も低いこと、また、全体として「情報収集力」と「論理的思考力」が低い傾向があることが明らかとなった。しかし、幼児の母親は女子大学生に比べて「探求心」と「論理的思考力」が有意に高いことから、これらの力は、幼児の母親の就職や結婚、子育て経験と関わりがある可能性が示された。

一方で、生きる力クラスター分析からは、幼児の母親と女子大学生の生きる力に異なる構造があることが明らかとなった。クラスターの構成比をみると、全体として生きる力が最も高いグループは、幼児の母親IVグループ15.7% (29名) であるのに対し、女子大学生ではivグループ28.6% (78名) となり、端的にクラスター構造の違いを示している。また、生きる力要素の得点では、第一段階として、幼児の母親は「対人効力」の高低で2タイプに分かれるのに対し、女子大学生は「対処能力」の高低で2タイプに分かれることが示唆された。さらに、第二段階として、幼児の母親の「対人効力」高群内・低群内と、女子大学生の「対処能力」高群内・低群内において、それぞれ「情報収集力」と「論理的思考力」がともに有意に差があることが明らかとなった。

以上から、幼児の母親と女子大学生の生きる力は、「対人効力」と「対処能力」がそれぞれカギとなっており、「情報収集力・論理的思考力」へ関連する構造となっている可能性が示された。

##### 4.2 「対人効力」「対処能力」と環境教育

幼児の母親の生きる力のカギと考えられる「対人効力」は、核家族化、少子化、共働き家庭の増加に伴う子育て家族の孤立化と関連している可能性がある。厚生労働省では、地域子育て支援拠点事業として、一般型の「地域子育て支援センター事業」や「つどいの広場事業」、連携型の「児童館における事業」を実施している<sup>26)</sup>が、入園前の乳児と保護者を対象としているため、園児と保護者が交流する場は多くない。また、インターネットの普及に伴い、生活に必要な情報や友人との連絡が電子化され、人とのかかわりが減っていることも指摘されている<sup>27)</sup>。このような状況の中、日曜日に開催される一般募集の環境学習講座は、幼児と保護者にとって他家族とかかわりをもつことができる有効な機会となる可能性がある。

また、女子大学生の生きる力のカギと考えられる「対処能力」は、学士力の4項目(①知識・理解、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学習経験と創造的思考力)のうち「汎用的技能」と「態度・志向性」に<sup>28)</sup>、社会人基礎力の3つの力(①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力)のうち、「チームで働く力」に関連するものと捉えることができる<sup>29)</sup>。そうだとすれば、学生の場合は、これまでの大学授業やサークル活動、アルバイト、ボランティア活動などへの参加経験に関与している可能性があり、今後社会人として身に付けることが期待される力でもある。幼児と親向け環境学習講座では、毎回学生スタッフが募集され、単に受講家族と楽しむのではなく、講座の目的を理解し、自身の役割を把握したうえで、運営に関わることが求められている。今

後このような講座スタッフの経験が女子大学生の「対処能力」を高め、生きる力の向上につながることを期待できる。

#### 4.3 生きる力の構造と家庭の様子との関係

生きる力の構造に着目し、幼児の母親の「対人効力」、「情報収集力」、「論理的思考力」と現在の家庭の様子との関係、女子大学生の「対処能力」、「情報収集力」、「論理的思考力」と幼少期の家庭の様子との関係をそれぞれ検討した。その結果、幼児の母親では、「対人効力」は「家族対話」と正の相関があり、「対人効力」の高さと「家族対話」の多さに関連があることが示された。また、女子大学生では、「情報収集力・論理的思考力」は「文化体験」「親子対話」と正の相関があるが、「学習」との関連は示されなかった。

一方、生きる力クラスターからは、「情報収集力・論理的思考力」と「文化体験」との関係が明らかとなった。幼児の母親について、「対人効力」高群内で、「情報収集力・論理的思考力」が高いIVグループは、低いIIIグループより家庭での「文化体験」が有意に高く、女子大学生については、「対処能力」低群内で、「情報収集力・論理的思考力」が高いiiグループは、低いiグループより幼少期の「文化体験」が有意に高いことから、「情報収集力・論理的思考力」の獲得に「文化体験」が重要であることが確認された。

#### 4.4 文化体験と環境教育

成人の生きる力にも有効性があると考えられる文化体験は、ESDの視点からも重要視されており、社会教育施設の国際的な連携が推進されている。2014年、ベルギーにて世界科学館サミット(SCWS: Science Center World Summit)が開催され、市民のSDGs参加を促進するための指針が示された<sup>30)</sup>。我が国でも、SDGsの達成に向け、全国科学館連携協議会などが地域における科学コミュニケーション活動や教育活動(STEM)を実施している。

知識基盤型社会において、「情報収集力」と「論理的思考力」は必須の力であり、ESDが目標とする「未来像を予測して計画を立てる力」や「多面的総合的に考える力」、社会人基礎力の「考え抜く力」、さらには、「批判的思考力(クリティカルシンキング)」<sup>31)</sup>にもつながる力と言えよう。

環境教育では、水圏環境教育における「ラーニングサイクル」理論の中で、佐々木は、学習者の学びを尊重しつつ学習者の概念を整理し、応用力を高めることが重要であり<sup>32)</sup>、その役割を担う人材の育成と市民の科学的思考力の向上が必要であると述べている<sup>33)</sup>。また、宮本は、

「論理的思考力」について、父親に比べて有意に低かった母親の「論理的思考力」が幼児と親向け環境学習講座の受講後に向上する傾向があることを報告している<sup>34)</sup>。幼児にとって、親は最も身近な教育者でもあり、次世代の育成にスタート時からかわる可能性が高い女子大学生が、親になる前に自らの生きる力を高めておくことは重要であろう。

#### 4.5 今後の課題

今後の環境学習講座では、野外活動に留まらず、科学館や博物館、水族館といった社会教育施設と連携し、実体験と文化的体験を組み合わせた講座カリキュラムの開発が有効と考えられる。

本研究では、幼児の母親、女子大学生ともに、環境や教育に関心が高い層のみを対象としているため、今後は調査対象を広げる必要がある。また、父親の育児参加が進む現代社会において、母親だけでなく、父親と父親予備軍としての男子大学生の生きる力獲得プロセスについても調査検討する必要がある。さらに、持続可能な社会の担い手となるためには、基礎的な知識も必要であると考えられることから、生きる力と知識との関係、大学での環境・教育カリキュラムが大学生の生きる力に与える影響についての研究も課題である。

#### 5. 謝辞

本研究の調査にご協力くださいました先生方、質問紙にご回答くださいましたお母様方、学生の皆様に心より感謝申し上げます。

#### 6. 引用文献

- 1) 文部科学省、「学習指導要領・生きる力」、2012
- 2) 文部科学省、「小学校学習指導要領」、2017
- 3) 文部科学省、「幼稚園教育要領」、2017
- 4) 文部科学省、「各専門分野を通して培う学士力」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryu/attach/1335215](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryu/attach/1335215) 最終閲覧日 2018年9月27日
- 5) 経済産業省、「社会人基礎力の具体的な育成・活用シーン」  
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> 最終閲覧日 2018年9月27日
- 6) 日本ユネスコ国内委員教育小委員会、「持続可能な開発目標(SDGs)達成に貢献するESD」  
[http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message\\_01.pdf](http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message_01.pdf) 最終閲覧日 2018年9月27日
- 7) 外務省、「SDGsとは?」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/>

- about/index.html 最終閲覧日 2018 年 9 月 27 日
- 8) 日本ユネスコ国内委員会小委員会, 「持続発展教育 (ESD) の普及促進のためのユネスコ・スクール活用についての提言」, 2008 <http://www.mext.go.jp/unesco/002/004/08043006/001.htm>  
最終閲覧日 2018 年 9 月 27 日
  - 9) 国立教育政策研究所, 「学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究」, 2012
  - 10) 国立教育政策研究所, 「環境教育指導資料」(幼稚園・小学校編), 2014
  - 11) 前掲 2)
  - 12) 前掲 3)
  - 13) 前掲 2)
  - 14) 前掲 3)
  - 15) 白木賢信・土屋隆裕・中村織江, 「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」国立青少年教育振興機構, 2011
  - 16) 安藤玲子・池田まさみ・宮本康司, 「親の生きる力と子どもの頃の体験」金城学院論集人文科学編, 2012, 9 (2)
  - 17) 宮本康司・池田まさみ・安藤玲子・吉原富子, 「子どもの生きる力へ保護者の幼少時体験が与える影響 - 環境教育の観点から -」東京家政大学人間文化紀要, 2013
  - 18) 宮本康司, 「平成 29 年度 北区環境大学事業における環境学習カリキュラム等の開発研究及び事業実施委託研究結果報告書」, 2018
  - 19) 山本俊光, 「幼少期の栽培体験と親の養育態度との関係」 - 女子大学生と園児の母親の場合 - 保育学研究, 2012, 50 (2), 18-25
  - 20) 太田知里・新井邦二郎, 「児童におけるソーシャルサポート, 親和動機が社会的スキル実行に与える影響」日本教育心理学会, 2007
  - 21) Benesse 教育総合研究所, 「幼児期の家庭教育国際調査」, 2018
  - 22) 前掲 17)
  - 23) 前掲 17)
  - 24) 前掲 17)
  - 25) 前掲 17)
  - 26) 内閣府, 「地域子ども・子育て支援事業について」  
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/administer/setsumeikai/h270123/pdf/s3-1.pdf>  
最終閲覧日 2018 年 10 月 31 日
  - 27) 太田ひろみ「都市部での子育てをめぐる課題と大学が行う子育て支援活動」杏林医会誌, 2014, 45 (3), 101-104,
  - 28) 前掲 4)
  - 29) 前掲 5)
  - 30) 世界科学館サミット, 2017  
<https://scws2017.org/jp/>
  - 31) 平山るみ・楠見孝, 「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響」 - 証拠評価と結論生成課題を用いての検討 - 教育心理学研究, 2004, 52, 186-198
  - 32) 佐々木剛, 『水圏環境教育の理論と実践 - 水圏環境リテラシープログラム』, 成山堂書店, 2011
  - 33) 佐々木剛・神崎かおり, 「科学的思考力の発達を促すファシリテーターの役割」, 臨床教科教育学会, 2014, 14 (1), 19-24
  - 34) 前掲 18)



**Appendix 1 生きる力 18 設問 (6 要素)**

4件法 (1.まったくあてはまらない~4.よくあてまる)	
探求心	もっと深く学んでみたいことがある 経験したことの無いことにもチャレンジしてみたい 外国の文化や人々の暮らしについてもっと知りたい
情報収集力	自分の調べたことが正しいかどうか、他の資料などで確認している 調べた情報を整理し、まとめている 分からないことはそのままにしないで調べている
論理的思考力	ものごとを筋道立てて考えている やることの段取りを考えている 困難な問題でも自分で解決しようと努力している
対処能力	自分なりのストレス解消の方法をもっている 面白いことや楽しいことを自ら見つけている 気軽に相談できる人がいる
他者の尊重	自分とは別の意見も考慮している 感謝やお詫びの気持ちを相手にきちんと伝えている 人の話を最後まで聞いている
対人効力	人前でも緊張せずに自己紹介している はじめて会った人とでも会話を続ける グループや集団のなかでもうまく行動している

**Appendix 2 家庭の様子 14 設問 (7 項目)**

4件法 (1.まったくあてはまらない~4.よくあてまる)	
学習	子どもの勉強をみる(ひらがなや数字などを教えたりする) 絵本や本の読み聞かせをする
文化体験	子どもを科学館や博物館に連れて行く 子どもを美術館や音楽会に連れて行く
親子対話	子どもに親がどんな仕事をしているか話す
夫婦対話	子どもの前で配偶者から、自分の長所をほめられる 夫婦でお互いの関心事についてよく話し合う
家族対話	家族全員で夕食をとる ごはんの時に、家族で会話を楽しむ
ルール	子どもがテレビを見る時間帯を決めている 子どもが寝る時刻を決めている
危険管理	知らない人についていかないように言い聞かせている 火遊びなどの危険な遊びをしないように注意している 子どもに危険なところへ近寄らないよう、安全に関する注意をしている